

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員 殿

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

## 技術情報第 7 号

### 果樹カメムシ類の果樹園への飛来について

本年の果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）の第 1 世代（新世代）の発生量は、前年よりやや多く前々年より少ないと予想されます。

果樹園への飛来時期は、早い地域では 8 月下旬頃から、県平均では 9 月上旬頃と予想されます。防除に際しては、園内への飛来状況の把握に努め、適期防除を行うよう指導願います。

- 1 対象作物：果樹全般（ナシ、カキ、カンキツ等）
- 2 病虫害名：果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）
- 3 果樹園への飛来時期：県平均 9 月上旬頃（早い地域は 8 月下旬頃から）
- 4 発生量(現況)：前年よりやや多、前々年より少
- 5 予察調査結果
  - (1) ヒノキ球果の口針鞘数調査結果  
5 地域（地点数 14ヶ所）における 7 月 5 半旬のヒノキ球果の口針鞘数は 0～4.1 本/球果と地域間にばらつきが認められ、県下平均では前年並であった（本年 1.9 本/球果、前年 1.0 本/球果、前々年 2.8 本/球果）（表 1）。
  - (2) ヒノキ球果ビーティング調査結果  
5 地域（地点数 14ヶ所）における 7 月 5 半旬のヒノキ球果ビーティング調査の結果、ヒノキ球果におけるチャバネアオカメムシの幼虫捕獲数は、前年よりやや多く前々年より少なかった（本年 2.1 頭、前年 0.4 頭、前々年 5.0 頭）（表 1）。

表1 ヒノキ球果の被害果率、口針鞘数及びヒノキビーティング調査による果樹カメムシ類成幼虫捕獲数と新世代の飛来予測時期  
調査時期：平成28年7月5半旬

調査場所	口針鞘数調査		ビーティング調査(頭)									新世代の 飛来予測時期	
	ヒノキ球果		チャバネアオカメムシ										
	被害果率(%)	口針鞘数(本)	成虫数	幼虫数					計	幼虫比(%)			
			1令	2令	3令	4令	5令	計	計				
福岡・飯塚	筑前町	5	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	-	9月上旬頃
	糸島市高祖(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	宗像市王丸	45	6.1	0	0	0	0	0	1	1	1	100	
	飯塚市入水(山倉)	45	1.9	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	平均(4か所)	31.7	2.0	0	0	0	0	0	0.3	0.3	0.3	100	
久留米	久留米市田主丸町森部	90	3.2	0	0	2	0	0	0	2	2	100	8月下旬頃
	うきは市吉井町福益	10	0	5	0	9	4	0	1	14	19	74	
	うきは市吉井町屋部	95	8.9	2	1	4	1	0	0	6	8	75	
	平均(3か所)	65.0	4.1	2.3	0.3	5.0	1.7	0	0.3	7.3	9.7	82.9	
朝倉	朝倉市長谷山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	9月上旬頃
	朝倉市柿原	40	1	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	朝倉市志波	95	3	0	4	0	0	0	0	4	4	100	
	平均(3か所)	67.5	1.3	0	1.3	0	0	0	0	1.3	1.3	100	
八女	八女市黒木町野田山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	9月上旬頃
	八女市立花町飛形山	25	1.5	0	0	0	0	1	1	2	2	100	
	みやま市山川町立山	20	0.7	5	0	0	1	0	0	1	6	17	
	平均(3か所)	22.5	0.7	1.7	0	0	0.3	0.3	0.3	1.0	2.7	58.3	
京築	みやこ町屋川木山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	9月中旬頃
	京築地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
本年(H28)		47.0	1.9	0.9	0.4	1.1	0.4	0.1	0.2	2.1	3.0	80.8	9月上旬頃
前年(H27)		34.2	1.0	0.5	0	0.1	0.2	0.2	0	0.4	0.9	45.0	
前々年(H26)		66.5	2.8	6.2	0.3	3.4	0.8	0.3	0.2	5.0	11.2	51.4	

注1)口針鞘数は20球果を調査し、1球果当たりの平均を記載。

注2)ビーティング調査は、1地点5枝、1枝当たり5回のたたき落としの結果。

注3)チャバネアオカメムシの卵から次世代の成虫になるまでの期間は、夏期の気温で約30~40日。

注4)H28は、チャバネアオカメムシの越冬量がH27と同程度の類似年。

注5)新世代の果樹園への飛来予測時期は、堤らの予測式により算出した口針鞘数が25本に達する時期。

予測式： $Y = 54.17 - 3.776x + 0.01937x^2$  (Y：球果採集日から離脱までの日数、x：口針鞘数(7月5半旬調査結果のみ適用可))

## 6 防除上注意すべき事項

- (1) 発生は地域差が大きく、同一園内でも被害状況が異なるので、園内を注意して見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。
- (2) 果樹カメムシ類は広範囲に移動するため、薬剤散布は広域一斉防除の効果が高い。
- (3) 薬剤防除の際は、収穫前日数等農薬使用基準を遵守する。
- (4) 降雨があると薬剤の残効が短くなるので、散布間隔に注意する。
- (5) 今後の発生状況については、病害虫防除所ホームページ (<http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka/>) を参照する。